

第2章 さいたま市の 現状



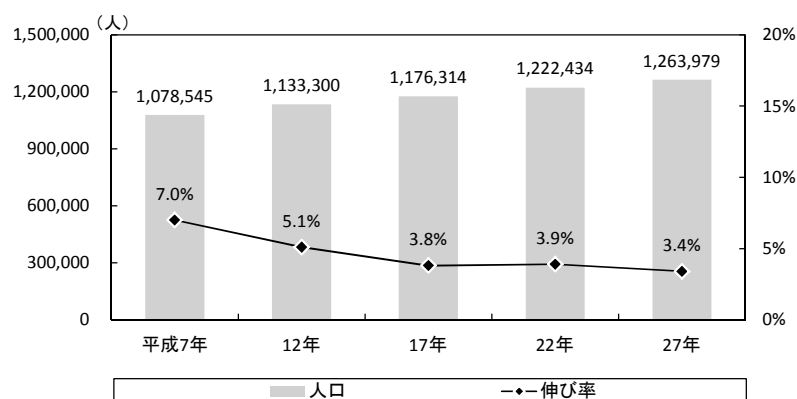
第1節 | 人口等の動向

(1) 総人口の推移と行政区別人口

人口は増加傾向。伸び率は4%未満で推移

本市の人口は増加傾向にあり、平成27年の国勢調査では約126万人となっています。人口の伸び率は、平成7年には7%でしたが、近年は4%未満で推移しています。

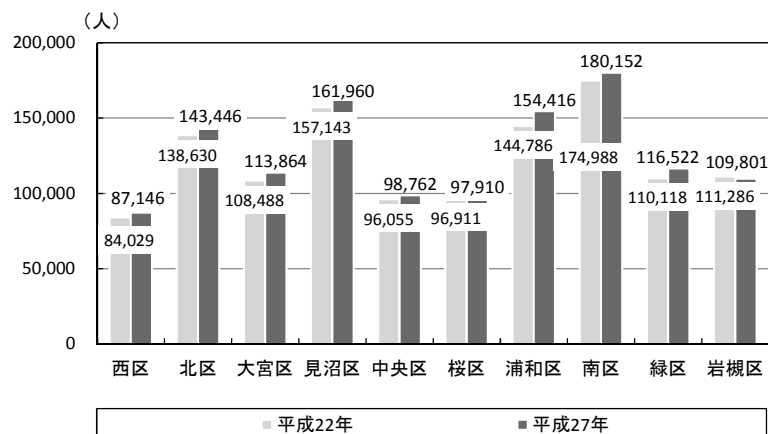
【図1 本市人口の年次推移と伸び率】



出典：国勢調査（各年10月1日現在。平成12年までの値は、合併前の浦和市、大宮市、与野市、岩槻市の計）

行政区別では岩槻区を除き人口が増加しています。

【図2 各行政区の人口〔経年比較〕】



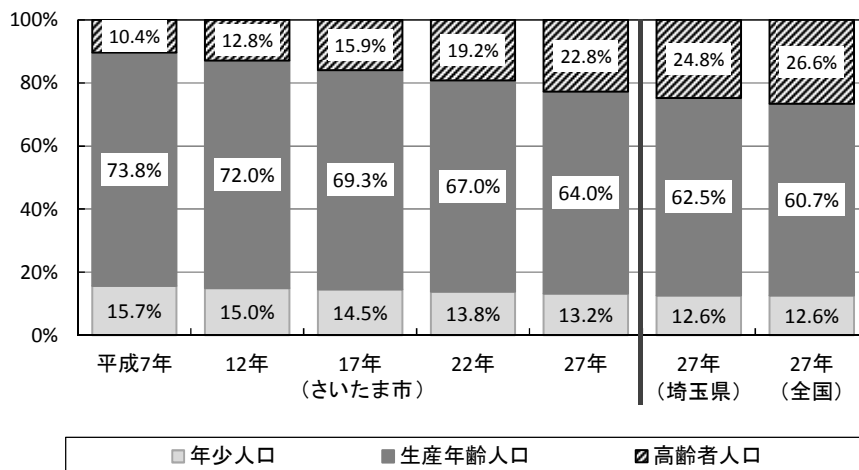
出典：国勢調査（各年10月1日現在）

(2) 年齢構造

15～64 歳人口が低下。65 歳以上人口が上昇

平成 27 年の国勢調査における本市の年齢 3 区分別人口構成割合は、年少人口（0～14 歳）が 13.2%、生産年齢人口（15～64 歳）が 64.0%、高齢者人口（65 歳以上）が 22.8%です。22 年調査と比べると、生産年齢人口が 3.0 ポイント低下し、高齢者人口が 3.6 ポイント上昇しています。

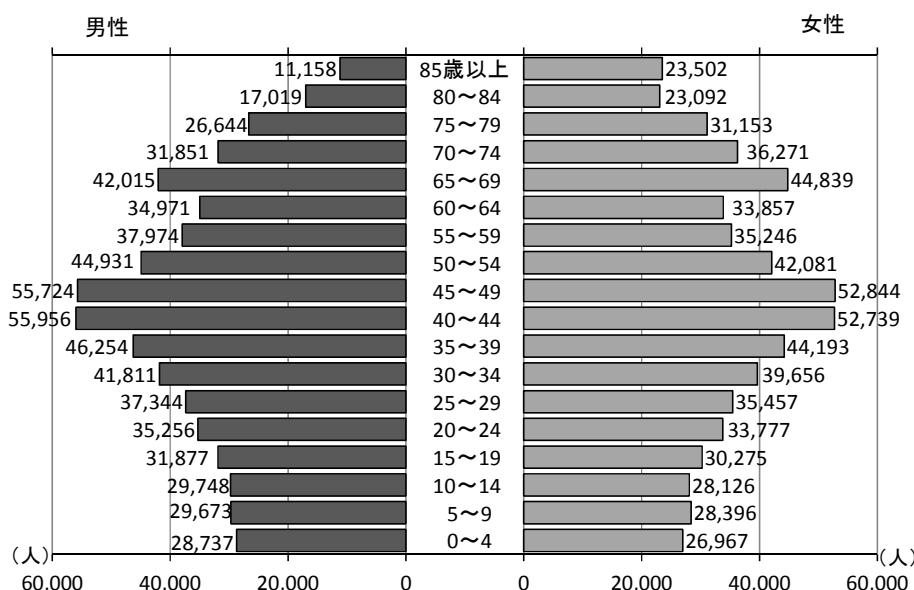
【図 3 年齢 3 区分別人口構成割合の推移】



出典：国勢調査（各年10月1日現在。年齢「不詳」を除き算出）

平成 29 年 1 月 1 日現在の 5 歳階級別人口構成を見ると、男女とも 40 歳代が多くなっています。

【図 4 年齢階級別人口構成割合】



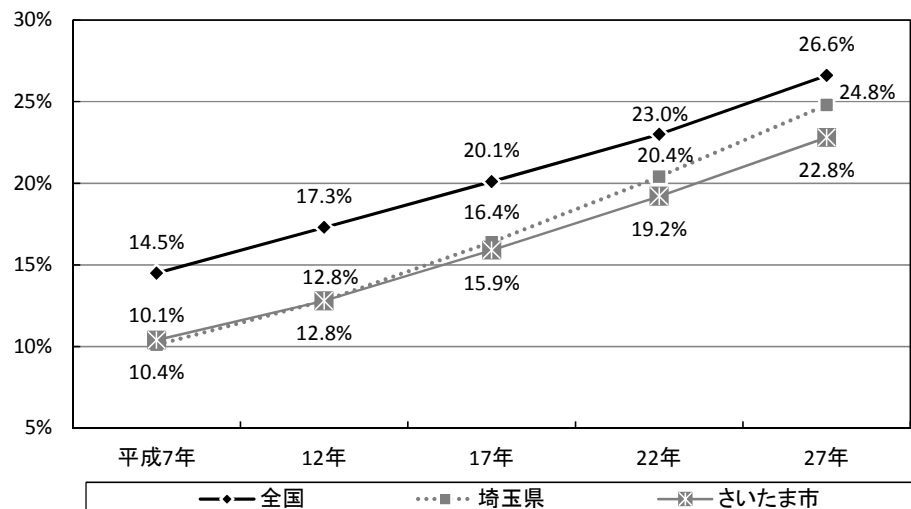
出典：住民基本台帳（平成29年1月1日現在）

(3) 高齢化率

高齢化率は依然上昇。75歳以上が高齢者の半数へ

高齢化率（65歳以上人口が総人口に占める割合）は、上昇を続けており、さいたま市では、全国平均を下回ってはいるものの、平成27年は20%を超えています。

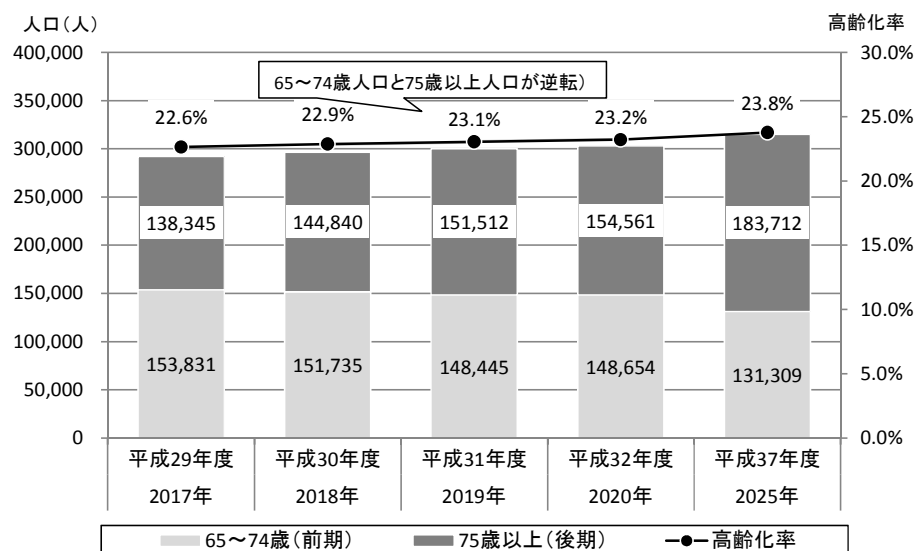
【図5 高齢化率の推移】



出典：国勢調査（各年10月1日現在。平成12年までの値は、合併前の浦和市、大宮市、与野市、岩槻市の計より算出）
※年齢「不詳」を除き算出。

今後も高齢者の割合は上昇するものと考えられており、75歳以上の後期高齢者の割合が高齢者の過半数を占めることが予想されています。

【図6 高齢者人口及び高齢化率の推移・推計】



出典：さいたま市第7期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

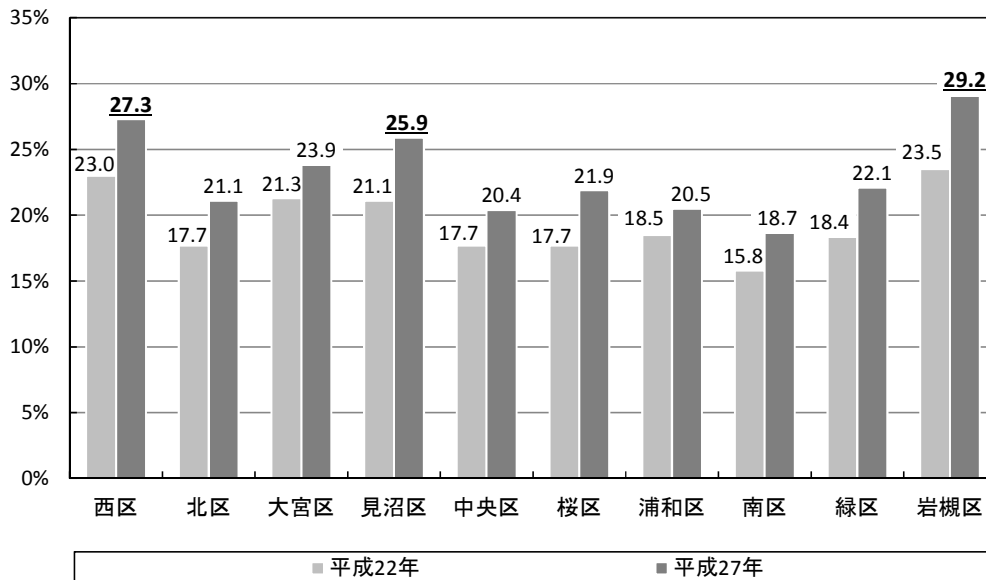
※さいたま市の平成29年度の値は、さいたま市ホームページ（平成29年10月1日現在）

さいたま市の平成30～37年度までの値は、保険料推計のため直近の人口を反映することで、より実態に近い数値とするため、平成24年～平成29年までの住民基本台帳を基にしたコーホート変化率法²による独自推計値を用いている。
注：調査時点及び推計方法の違いにより、総合振興計画後期基本計画等の推計人口とは一致しません。

² コーホート変化率法：過去における実績人口の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法。

高齢化率は、行政区によって差があり、平成 27 年には岩槻区、西区、見沼区で 25% 以上となっている一方、南区では 20% 未満となっています。平成 22 年調査では 6 区で 20% 未満でしたが、27 年調査では南区のみとなっており、各区で高齢化が進んでいることがわかります。

【図 7 各行政区の高齢化率〔経年比較〕】



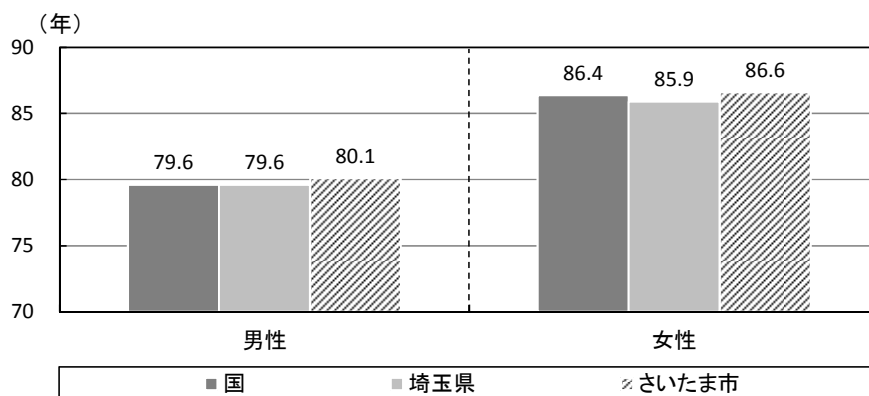
出典：国勢調査（各年10月1日現在）

（4）平均寿命と健康寿命³

平均寿命・健康寿命は県と同水準か、上回る

平成 22 年における本市の平均寿命は、男性 80.1 歳、女性 86.6 歳で、ともに国や埼玉県

【図 8 平均寿命〔性別〕】

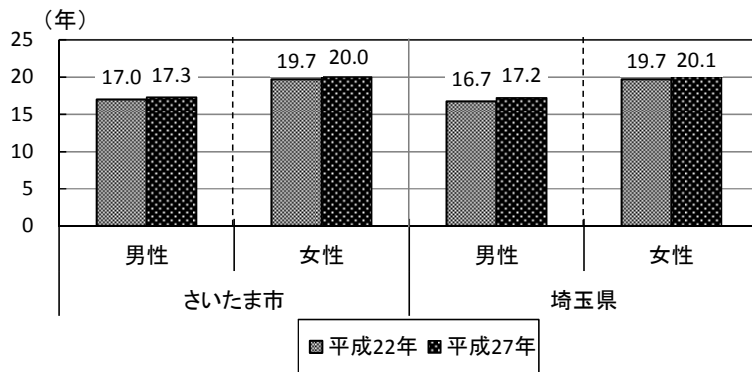


出典：市区町村別生命表（平成22年）

³ 健康寿命：日常生活に介護を必要としない、心身共に自立した活動的な状態で生存できる期間のこと。その算出方法はいくつかあるが、本計画では、65歳に達した人が要介護2以上になるまでの期間としている。

65歳健康寿命については、平成22年と平成27年を比較すると、本市は男性が17.0年から17.3年、女性が19.7年から20.0年へと延び、男性は埼玉県を上回り、女性は埼玉県よりわずかに下回っています。

【図9 65歳健康寿命の推移〔性別・経年比較〕】



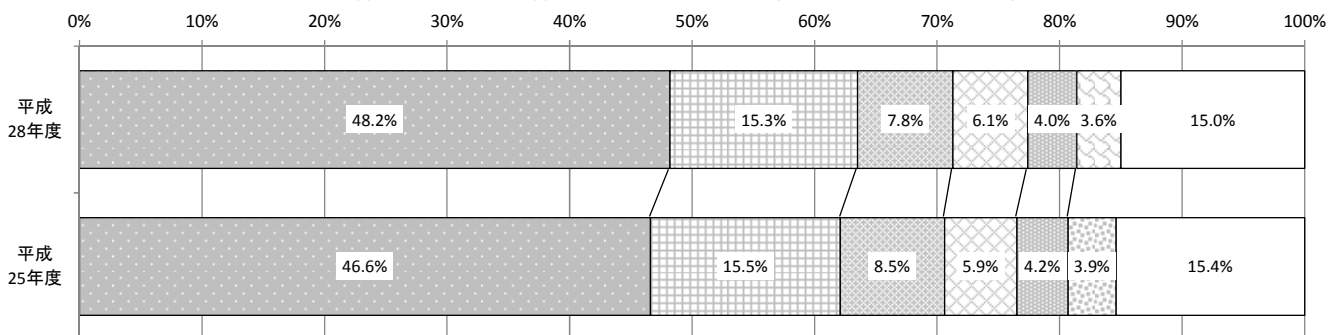
出典：埼玉県衛生研究所算出 ※小数点第2位を四捨五入

疾病予防と健康増進、介護予防などによって、平均寿命と健康寿命の差を短縮することができれば、個人の生活の質の低下を防ぐとともに、社会保障費の削減も期待できます。

(5) 本市の40歳～64歳の市民が 要介護(要支援)の認定となった理由 生活習慣病から→要介護(要支援)

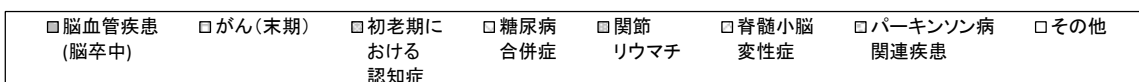
生活習慣病である脳血管疾患(48.2%)、がん(末期)(15.3%)、糖尿病合併症(6.1%)を合計すると69.6%となっており、平成25年度と比べると合計は1.6%増加しています。

【図10 さいたま市介護保険第2号被保険者(40～64歳)要介護(要支援)認定理由割合】



※その他：平成25年度＝脊柱管狭窄症、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、後縦靭帯骨化症、変形性関節症、骨折を伴う骨粗鬆症、筋萎縮性側索硬化症、閉塞性動脈硬化症、慢性閉塞性肺疾患

平成28年度＝パーキンソン病関連疾患、脊柱管狭窄症、多系統萎縮症、後縦靭帯骨化症、変形性関節症、骨折を伴う骨粗鬆症、筋萎縮性側索硬化症、閉塞性動脈硬化症、慢性閉塞性肺疾患



出典：さいたま市介護保険課調べ

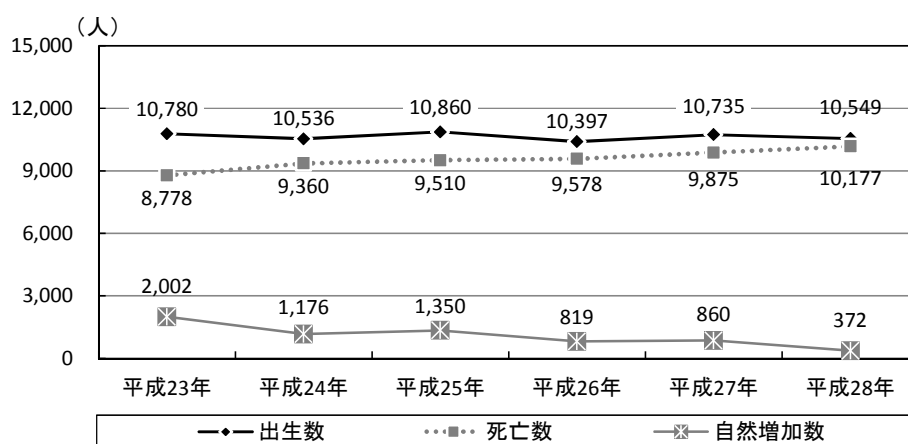
第2節 | 出生と死亡の動向

(1) 出生数・死亡数の推移

出生数1万超で推移。出生数－死亡数＝1,000未満

本市の出生数は、1万人を超えて推移しています。死亡数は、近年増加傾向にあるため、平成26年以降、出生数と死亡数の差である自然増加数は1,000人を下回っています。

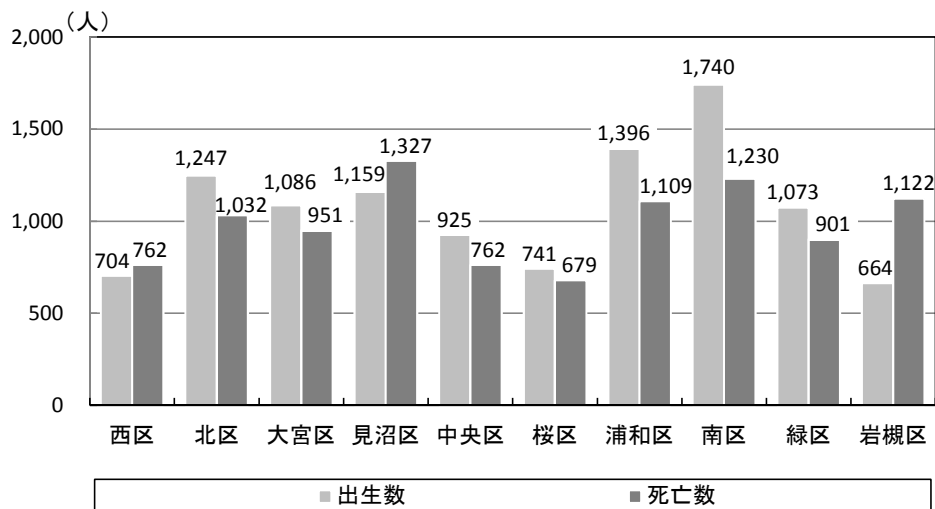
【図11 出生数・死亡数の推移】



出典：人口動態統計

行政区別では、南区で自然増が500人以上となっている一方、岩槻区、見沼区、西区で死亡数が出生数を上回っています。

【図12 各行政区の出生数・死亡数】



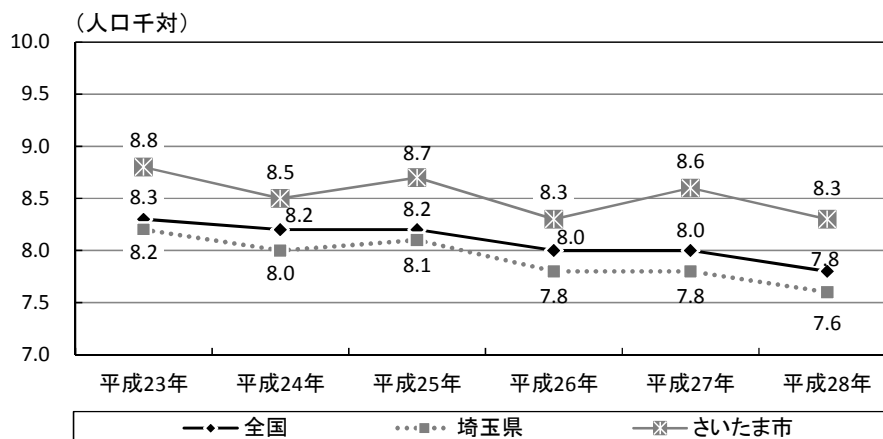
出典：人口動態統計（平成27年）

(2) 出生率・死亡率の推移

出生率は人口1,000に対して8以上。死亡率は8以下

本市の出生率は、人口1,000に対して8以上で推移しており、国や埼玉県を上回る状況が続いています。

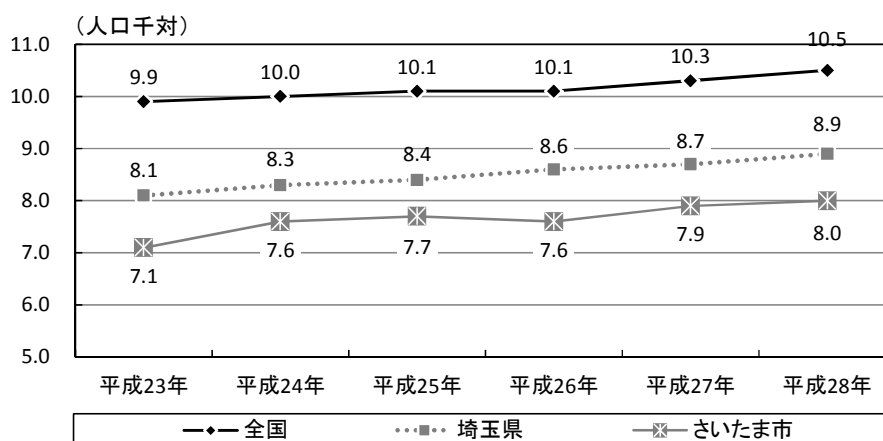
【図13 出生率の推移】



出典：人口動態統計

本市の死亡率は、人口1,000に対して8以下で推移しています。国や埼玉県を下回る状況が続いています。

【図14 死亡率の推移】



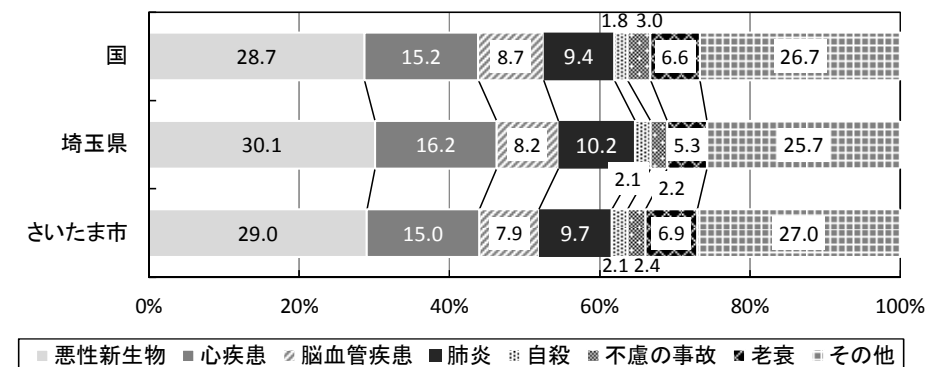
出典：人口動態統計

(3) 主な死因別死亡

死因は三大生活習慣病が過半数

平成 27 年における本市の死因の割合は、悪性新生物が 29.0%で最も高く、次いで心疾患⁴（高血圧性を除く）が 15.0%となっています。

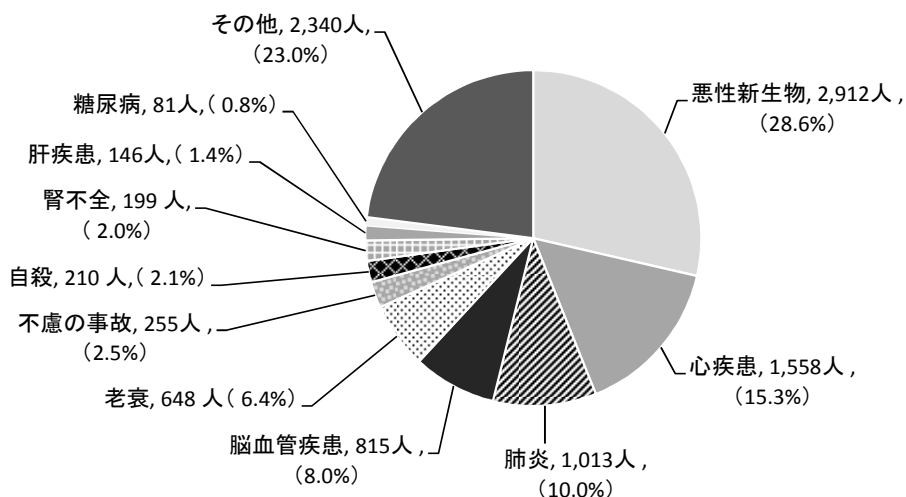
【図 15 死因別死亡割合（国、埼玉県との比較）】



出典：人口動態統計（平成27年） 注：心疾患は高血圧性を除く。

本市における死因別死亡数を詳しくみると、三大生活習慣病とよばれる、悪性新生物（2,912人、28.6%）、心疾患（1,558人、15.3%）、脳血管疾患⁵（815人、8.0%）で過半数を占めています。

【図 16 市の死因別死亡数】



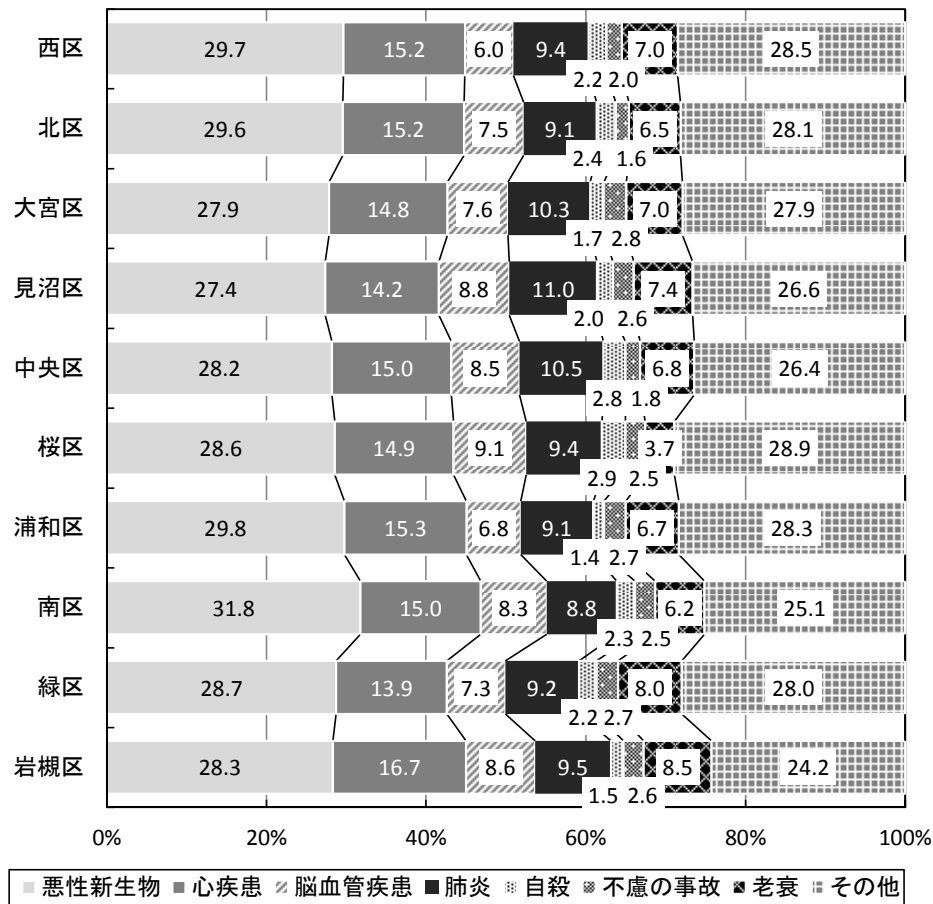
出典：人口動態統計（平成28年） 注：心疾患は高血圧性を除く。

⁴ 心疾患：心臓病のこと。この中には虚血性心疾患や心不全が含まれる。

⁵ 脳血管疾患：脳卒中のこと。脳の血管がつまったり（脳梗塞）破れたり（脳出血）して脳の機能が低下する。また、脳が障害を受けた状態で意識障害や手足のしびれ等の症状を引き起こす。

行政区別に死因を見ると、区によって若干の違いは見られるものの、いわゆる三大生活習慣病で約5割を占めています。また、岩槻区、緑区では老衰が8%以上となっており、他区よりもやや高い割合となっています。

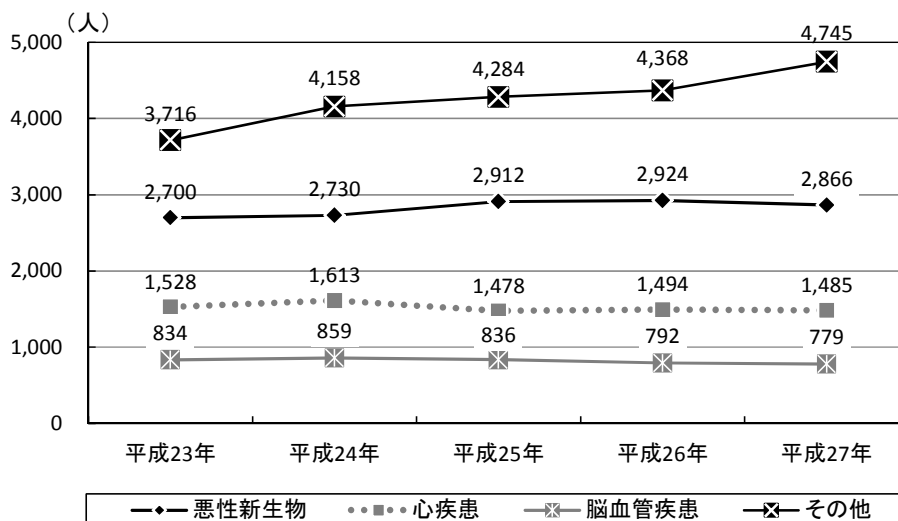
【図 17 各行政区の死因別死亡割合】



出典：人口動態統計（平成27年） 注：心疾患は高血圧性を除く。

本市の、三大生活習慣病による死亡数は、近年横ばいとなっています。

【図 18 市の三大生活習慣病による死亡数の推移】



出典：人口動態統計 注：心疾患は高血圧性を除く。

疾患別死因順位の上位は、平成 24 年以降、悪性新生物、心疾患、肺炎、脳血管疾患、老衰で変動がありません。

【表 1 さいたま市の疾患別死因順位】

単位：%

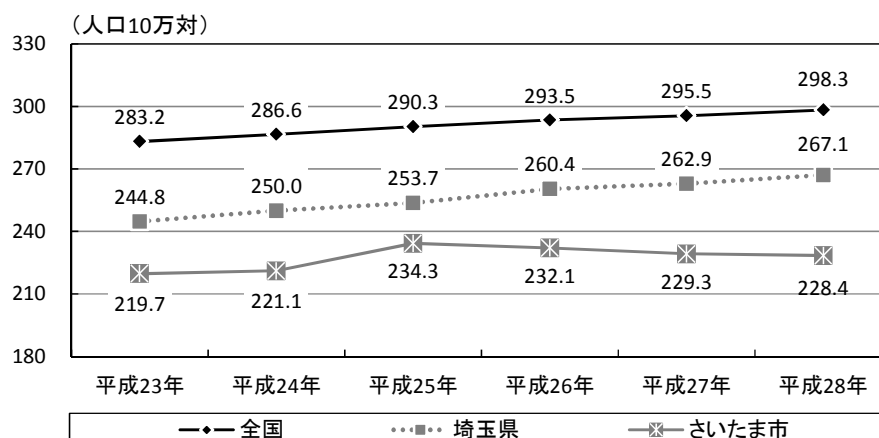
	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
1位	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物
	30.8	29.2	30.6	30.5	29.0	28.6
2位	心疾患	心疾患	心疾患	心疾患	心疾患	心疾患
	17.4	17.2	15.5	15.6	15.0	15.3
3位	脳血管疾患	肺炎	肺炎	肺炎	肺炎	肺炎
	9.5	9.6	9.8	9.4	9.7	10.0
4位	肺炎	脳血管疾患	脳血管疾患	脳血管疾患	脳血管疾患	脳血管疾患
	9.2	9.2	8.8	8.3	7.9	8.0
5位	老衰	老衰	老衰	老衰	老衰	老衰
	3.2	4.1	4.6	5.4	6.9	6.4
6位	自殺	不慮の事故	自殺	不慮の事故	不慮の事故	不慮の事故
	3.1	2.8	2.7	2.3	2.4	2.5
7位	不慮の事故	自殺	不慮の事故	自殺	自殺	自殺
	2.5	2.7	2.5	2.3	2.1	2.1
8位	腎不全	腎不全	腎不全	腎不全	腎不全	腎不全
	1.8	1.8	1.6	1.8	1.8	2.0
9位	慢性閉塞性肺疾患	肝疾患	肝疾患	肝疾患	肝疾患	肝疾患
	1.3	1.5	1.3	1.3	1.3	1.4
10位	肝疾患	敗血症	その他の新生物	敗血症	慢性閉塞性肺疾患	大動脈瘤及び解離
	1.2	1.1	1.1	1.2	1.1	1.4

出典：人口動態統計

※数値は、さいたま市全体の死亡数に占める割合（%）。心疾患は、高血圧性を除く。

悪性新生物の死亡率は、平成 25 年以降減少傾向にあります。

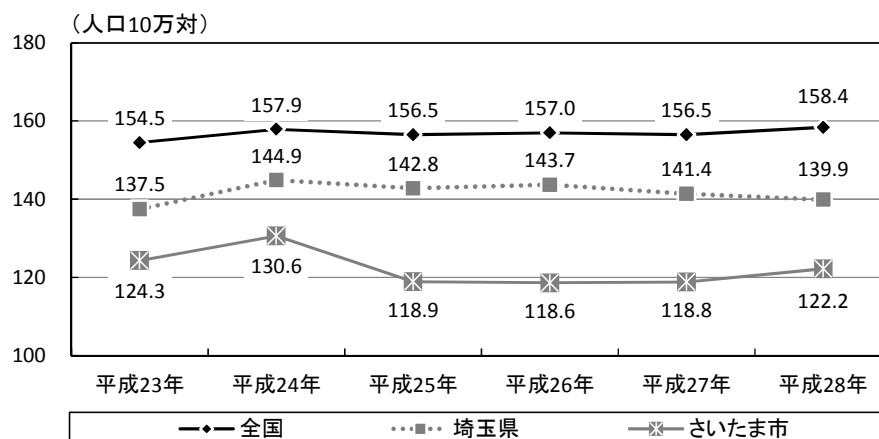
【図 19 悪性新生物の死亡率（人口 10 万対）の推移】



出典：人口動態統計

心疾患（高血圧性を除く）の死亡率は、国、埼玉県の値より 15 ポイント以上下回っています。

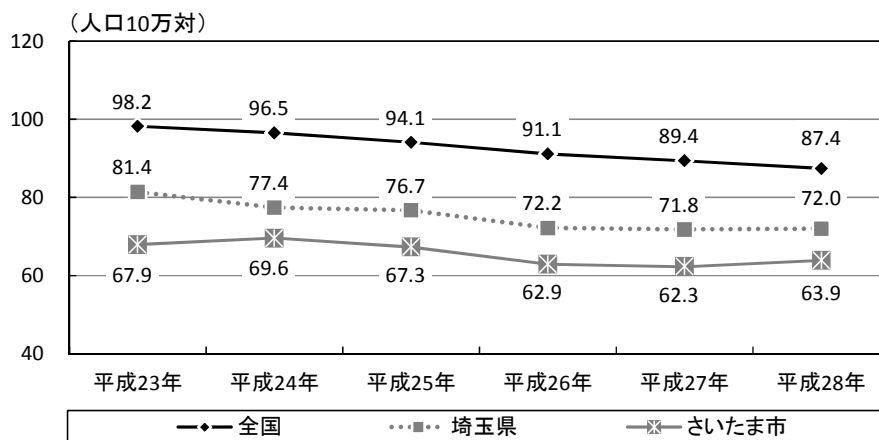
【図 20 心疾患（高血圧性を除く）の死亡率（人口 10 万対）の推移】



出典：人口動態統計

脳血管疾患の死亡率は平成 24 年以降減少傾向でしたが、平成 28 年から増加に転じています。

【図 21 脳血管疾患の死亡率（人口 10 万対）の推移】



出典：人口動態統計